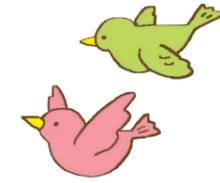


4

認知症の段階別に見られる主な症状と 家族の対応

認知症は少しずつ進行し、症状や必要な対応が変わっていきます。認知症の進み方を知って、進行に合わせた対応を心得ておきましょう。



地域の皆さんの見守り・支え合いをお願いします

認知症の人やその家族が地域から孤立してしまわないよう、地域の皆さんの積極的な声かけと気配りにご協力をお願いします。

認知症の段階	元気	認知症の疑い	認知症(軽度)	認知症(中等度)	認知症(重度)
	自立	<ul style="list-style-type: none"> 健康づくりや介護予防に取り組む 地域とのつながり(社会参加)を大事にする 	<ul style="list-style-type: none"> もの忘れが増えるが自覚もある(人からも言われ始める) 日常生活は自立しているが、計算間違いや漢字のミスなどが増える 	<ul style="list-style-type: none"> 同じことを何度も聞くようになる 物や人の名前が出てこない 置き忘れやしまい忘れが増える 料理や買い物、金銭管理などが難しくなってくる 	<ul style="list-style-type: none"> 「ものを盗られた」などの発言が出る 洋服の着替えがうまくできなくなる 家までの帰り道が分からなくなる 書字・読字が苦手になる もの忘れの自覚がない
人の子(目安)	<ul style="list-style-type: none"> 健康づくりや介護予防に取り組む 地域とのつながり(社会参加)を大事にする 	<ul style="list-style-type: none"> もの忘れが増えるが自覚もある(人からも言われ始める) 日常生活は自立しているが、計算間違いや漢字のミスなどが増える 	<ul style="list-style-type: none"> 同じことを何度も聞くようになる 物や人の名前が出てこない 置き忘れやしまい忘れが増える 料理や買い物、金銭管理などが難しくなってくる 	<ul style="list-style-type: none"> 「ものを盗られた」などの発言が出る 洋服の着替えがうまくできなくなる 家までの帰り道が分からなくなる 書字・読字が苦手になる もの忘れの自覚がない 	<ul style="list-style-type: none"> 食事、トイレ、お風呂、移動などの日常生活に関することが、誰かの助けがないと難しい 車いすやベッド上での生活が長くなる 言葉数は少なくなるが、感覚(目・耳・鼻などの機能)は残っている
族の心得・対応のイント	<ul style="list-style-type: none"> 本人と一緒に認知症予防に関する取り組みを実践しましょう 	<ul style="list-style-type: none"> 年のせいにはせず、気になり始めたら、早めにかかりつけ医や各種窓口にご相談しましょう(認知症早期発見の目安▶6ページ) 	<ul style="list-style-type: none"> 同じことを聞かれても、きちんと返答しましょう 何でもかんでも取り上げず、本人ができないことをサポートしましょう 認知症についての勉強や介護保険サービスの利用を開始しましょう 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な症状が現れてきて疲れる時期。人の助けを借りましょう 通所サービスのみでは困難、訪問系や地域密着型サービスなどの検討をしましょう 	<ul style="list-style-type: none"> 本人が安心できる環境づくりを心がけましょう 最期の迎え方について話し合いをしておきましょう



あなた(本人・家族)が安心して暮らすために

閉じこもりがちな生活で人との関わりが少なかったり、周囲の人の対応によっては、認知症がさらに進んでしまうこともあります。各種サービスの利用や相談に加え、日頃から地域活動に参加し、絆をつくり、支え合いの芽を育てましょう。



おはようございます、今日も1日よろしくお祈りします。

